

取組の視点

生徒

- 学習意欲を高め、自律的な学びにつなげる
- 自己肯定感の高まりを自主的、自律的な行動につなげる
- 協同の価値を様々な場面で見出す

教職員

- 生徒の能力を過小評価しない
- 原点に戻る（ねらいの意識化・明確化）
- 優先順位、スクラップ&ビルドを意識

本年度の目指す生徒の姿

- 一歩踏み出した自分を描いて、チャレンジする生徒
- 自分の能力に気づいて、自主的、自律的な学びに価値を見出す生徒
- 協同する価値を見出す生徒

努力点	学校自己評価				学校関係者評価
	本年度の具体的方策	評価指標	評価結果	次年度以降への改善策	
学びのある授業	学ぶことの意味が実感できる授業作りを行い、生徒の自律的な学びを深める工夫をする。	生徒の授業アンケートから、授業を通して新たな知識や考え方(技能・技術)を獲得し、自律的な学びにつなげたと答えた生徒が90%以上A, 80%以上B, 80未満C 単位修得率が、前年比2%以上向上A, 2%未満向上B, 低下したC			
居がいのある学校生活	学校行事において、生徒の活動場を増やし、自己肯定感を醸成する。 健康な生活が送れるように、保健便り等を通して保健指導を行い、生徒の意識高揚を図る。	アンケートによる特活的行事への満足度が前年比5%以上向上A, 5%未満B, 低下したC 生徒アンケートから、健康に留意したと答えた生徒が70%以上A, 60%以上B, 60%未満C			
進路や生き方につながる履修計画	校外模試の活用を通して、希望生徒個々の学力を把握し、進学実現を図る。 就職を希望する卒業予定生徒の進路実現を図る。 各生徒に応じた履修指導の充実を図る。	進学希望者の進学先決定率が、85%以上A, 65%以上B, 65%未満C 就職希望者の内定率が、80%以上A, 60%以上B, 60%未満C 履修指導の満足度アンケートから、満足度が80%以上A, 70%以上B, 70%未満C			
困難な状況の生徒への支援	面談や調査・検査の結果を活用し生徒の傾向やニーズに基づいた対応を実践する。 生徒や保護者が抱える課題について、校内でのケース会議の開催等、組織的な援助体制の構築を図る。	生徒アンケートで、相談や一人ひとりに対応した指導についての評価が昨年を上回るA, 昨年同様B, 下回るC 困難な状況の生徒の課題に対して、組織的な援助ができたA, ある程度援助ができたB, 援助ができなかったC			
開かれた学校、外部資源の活用	学校ホームページの充実を図る。	アクセス数が一月1万回以上A, 6千回以上B, 6千回未満C			
安全安心な学習環境の確保	いじめ防止に対して、組織的に対応する。 校内外の巡回指導や日頃の生徒観察、声かけを実施し、危険防止、問題行動の未然防止を目指す。	安心、安全サポート調査等を活用して対人トラブルに早期に対応できたA, おおむねできたB, 対応が遅れたC 巡回や声かけにより、成果が上がったA, 巡回等は計画的にできたB, 不十分だったC			

